

地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の推進について（建議） の概要

地震予知研究

火山噴火予知研究

- 地震予知計画（第1～7次）（昭和40年度～平成10年度）
- 地震予知のための新たな観測研究計画（第1～2次）（平成11～20年度）
地震発生に至る全過程の把握により、その最終段階で発現する現象を理解し、**地震発生の時期、場所、規模の定量的な予測**を目指す

- 火山噴火予知計画（第1～7次）（昭和49年度～平成20年度）
火山の構造を把握し、前兆現象や噴火機構など火山活動の理解を深めることにより、**噴火の時期、場所、規模、様式及び噴火開始後の推移の定量的な予測**を目指す

現段階の目標到達度

- プレート境界で発生する大地震
→ 場所と規模の予測に一定の見通し
- 内陸地震
→ 発生機構のモデル化を開始

現段階の目標到達度

- 適切な観測体制が整備された火山
→ 噴火時期をある程度予測可能（噴火警戒レベルの導入）

「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」

●二つの計画を統合した本計画のポイント

- ・ 現計画の成果を引き継ぎ、地震予知研究及び火山噴火予知研究を着実に推進するため、**平成21年度から5年間を見据えた計画**
- ・ 特に、これまでの基礎的な観測研究やモニタリングの成果に基づき、**「予測システムの開発」をより明瞭に志向した研究**を推進
- ・ 共通する地球科学的背景を持つ**地震・火山現象を共同で観測研究**することは、**それぞれの現象理解に有効**
- ・ 稠密な地震・地殻変動の観測網などの**研究資源を有効活用**することにより、**効率的で効果的な研究**を実施

地震・火山現象解明のための観測研究

予測システムの基礎となる観測研究を行う。

- ・ 日本列島及び周辺域での長期的・広域的現象
- ・ 地震・噴火に至る準備過程
- ・ 地震発生先行・破壊過程と火山噴火過程
- ・ 地震発生・火山噴火素過程

地震・火山現象予測のための観測研究

モニタリングを更に発展させ、そのデータを用いて**地震・火山現象の予測システムを開発**する。

- ・ モニタリングシステムの高度化
- ・ 地震発生・火山噴火予測システムの構築
- ・ データベースの構築

新たな観測技術の開発

地震・火山噴火予知に資する**新たな観測技術の開発**を行う。

- ・ 海底における観測技術の開発と高度化
- ・ 宇宙技術等の利用の高度化
- ・ 観測技術の継続的の高度化

計画推進のための体制の強化

計画推進体制の整備

観測研究体制の強化

予算・人材の支援

人材の養成・確保

国際協力・共同研究の推進

研究成果の社会還元

安全・安心な社会の実現に寄与